

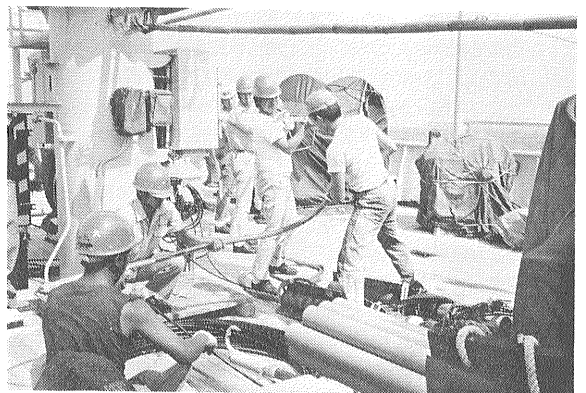
No. 2

**ESCAP/RMRDC 第8回管理理事会**（8月29日～9月4日 東京） 国連のESCAP（アジア太平洋経済社会開発委員会）RMRDC（地域鉱物資源開発センター）の管理理事会が初めて日本で開催され、地質調査所の垣見所長が日本代表として議長を務めました。

**黒鉱鉱床の国際セミナー**（9月3日 筑波） RMRDCの事業の一つとして黒鉱鉱床に関する国際セミナーが地質調査所の主催で9月3日工技院共用講堂で開催されました。また4日～9日は各国からの参加者のための巡検旅行（大館周辺）が行われ大変好評でした。（藤井）

**熱烈歓迎**（中国旅行の印象から） 去る7月4日から17日までの2週間「地球化学的地震予知研究」の動向調査のため中国へ行って参りました。訪問の主な目的は中国の地球化学的地震予知研究や観測がどのように行われているかまたどのような成果を挙げているかを実際に見聞することでした。北京・蘭州・上海の各地を訪問し多くの研究者と討論をしたり観測施設や機器を見せてもらいました。今回の中国国内のスケジュールは国家地震局とくに蘭州地震研究所が全面的にアレンジしてくれましたが実に微に入り細に亘るいわば痒い所に手が届くといった至れり尽くせりのものでした。勉強にも観光にも何しろ朝早くから夜遅くまでいやな顔一つせずに気持ちよく応待していただきました。熱烈歓迎という言葉はよく耳にしますが実際に体験するのは初めてでなるほどお客様に対するもてなし方は聞きしにまさる熱烈ぶり。各地での熱烈歓迎熱烈学習のお陰で大変充実した2週間を過ごすことができました。謝々。われわれもお客様をお迎えする時無論心から歓迎はするのですが中国式の熱烈歓迎にはとても太刀打ちできそうにもありません。9月2日から10月1日までの30日間地質調査所は工業技術院海外研究員招へい制度で中国国家地震局蘭州地震研究所の郭増建所長をお招きすることになっております。中国式熱烈歓迎には到底及びませんが日本式熱烈歓迎で誠心誠意お迎えしたいと思っている今日この頃です。（田口）

づきとなり エアガンによる海底地震探査 プロトン磁力計船上重力計による海上重磁力探査を併用した海上物理探査手法 グラブ・サンプラー コア・サンプラーによる底質採取法を実習した。中尾征三調査団長ほか5名の研究員の手なれた指導で船上実習は次々に行われたが海洋地質調査には目的に応じた探査手法の選定 組合せ 探査手順があり調査船全体が研究員と乗組員との有機的な動きによって進行していることが充分理解できたと研修員が事後述べている。調査海域を脱し母港船橋へ回航の2日間は海の調査に関連した話題や日常的な話で過ごすうちに次の航海に備えて船内の整備や準備に立ち働く乗組員 研究員にも印象を受けたとのことである。ともあれ当沿海鉱物資源探査集団研修の最大イベントである白嶺丸船上実習で貴重な経験が積まれたことは中尾団長以下海洋地質部研究員 白嶺丸乗組員の親切な指導の賜物であったと感ずる次第である。（武居）



白嶺丸の船上実習（エアガン調査）  
揺れる甲板でハイドロフォン（検出器）を下ろす共同作業。初めての経験のため研修員の足元はおぼつかない。

**沿海鉱物資源探査集団研修員の船上実習** 6月17日開講した今年度集団研修（8ヶ国9名の各国研修員）は第5週目から教室を離れて初の野外実習を行った。

白嶺丸 GH 85-2 調査航海における北九州 西南日本周辺での海洋地質調査の見学 実技の船上実習である。前年の白嶺丸航海実習が折悪しく台風に襲われて採泥作業1回しかできなかったと聞いていた航海経験の少ない研究員は7月13日博多港を出港 玄海灘に向ったときには荒海にとまどいと不安もっていた。さいわい 船が響灘 見島付近の実習海域へ到達した頃には 梅雨空も明けて 海は平穏 真夏の好天つ

フジヤマ・芸者 チョンマグ・帯刀といった極端な誤解はなくなったが 欧米にはまだ誤った日本のイメージが払拭し切れていない。7月下旬 某先進国の地理学者の視察団が標本館見学に訪れた際 酸素ボックスの所在を聞かれて当惑した。その国の教科書には大気汚染がひどく日本人は自衛のマスクをし 町の随所にある酸素ボックスにコインを入れ新鮮な空気を吸引すると写真入りで記載されていると言う。知識階級すらも抱いているこの笑えぬ誤解を解くことも訪問外国人に対する海外室の重要な役割りである。（桑形）